



第54回 なかちく公民館まつり

舞台発表の部

3月1日(日) 9:30~16:20

中地区公民館を定期的に利用しているグループが日頃の成果を発表します。

*バザーもあります(軽食・焼き菓子等)



展示発表の部

3月7日(土) 10:00~16:00

3月8日(日) 10:00~15:00

定例グループの作品が展示されます(絵画・書・陶芸・生け花等)

7日(土)

*バザー【軽食(カレー・うどん等)】

*お茶会

8日(日)

*バザー【軽食(カレー・うどん等)】

*お茶会 *ガレージセール

※変更になる場合もあります。

場 所 中地区公民館

問い合わせ 中地区公民館 ☎53-1376



3月の歳時記



3月は弥生(やよい)と呼ばれます。「弥」には、いよいよという意味があり、「生」には生い茂るという意味があります。

「弥生」とは、草木がいよいよ生い茂る月という意味です。

3月3日 桃の節句(もものせつ)



女の子の健やかな成長を願う節句です。元々は「上巳(じょうし・じょうみ)の節供」といわれていました。起源は古来中国の上巳節。上巳とは、3月最初の巳の日という意味です。中国では、上巳の日に、

川で身を清め、不浄を祓った後に宴を催す習慣がありました。これが平安時代日本に伝わり、宮中の人形遊び「ひいな遊び」と結びつき「流し雛」へと発展したといわれています。

3月6日 啓蟄(けいちつ)

毎年3月6日頃。および春分までの期間。雨水から数えて15日目頃。啓は「ひらく」、蟄(ちつ)は「土中で冬ごもりしている虫」の意味で大地が暖まり冬眠していた虫が、春の訪れを感じ、穴から出てくる頃。まだまだ寒い時節ですが、一雨ごとに気温が上がり、日差しも徐々に暖かくなってきます。



3月8日 国際女性(こくさいじょせい)デー

1904年3月8日にアメリカ・ニューヨークで婦人参政権を求めたデモが起源となり、1910年のコペンハーゲンでの国際社会主義会議にて「女性の政治的自由と平等のために戦う日」と提唱したことから始まりました。その後、国連は1975年の国際婦人年において、3月8日を『国際女性デー』と制定し、世界各地でそれぞれの国の歴史と伝統に応じて、様々な働きかけが行われています。



3月18日 彼岸の入り(ひがんのいり)

春分の日を中日(ちゅうにち)とし、てその前後3日を合わせた7日間の彼岸。このの初日を彼岸の入りと呼び、最後の日を彼岸明けと呼びます。

仏教では、私たちの住む煩悩(ぼんのう)の世界を「此岸(シガン)」、三途の川(さんずのかわ)を挟んで、ご先祖様の霊が住む世界を「彼岸(ひがん)」といいます。

この極楽浄土は西の彼方にあるとされているため、太陽が真西に沈む春分・秋分にお墓参りや先祖供養を行うようになりました。これは、日本独自のものです。

ちなみに、春のお彼岸に食べるのは「ぼたもち(牡丹餅)」ですが、同じものでも秋は「おはぎ(お萩)」。これは、季節の花にたとえているからです。

(地域によっては、粒あんとしあんと呼び方を分けているところもあります。)



3月7日消防記念日(しょうぼうきねんび)

昭和23年3月7日に「消防組法」が施行され、消防が警察から独立した組織になり、市町村消防を原則とする今日の「自治体消防」が誕生しました。これを記念して、我が国の消防に関する理解と認識を深めるために、昭和25年に国家消防庁(現・総務省消防庁)によって制定されました。

